

かわむらこどもクリニックNEWS

Volume 19 No 6

215号

平成23年 6月 1日

かわむらこどもクリニック 022-271-5255

HOME PAGE <http://www.kodomo-clinic.or.jp/>

同時接種をすすめましょう

院長

ヒブワクチン、小児用肺炎球菌ワクチンと同時接種が再開され2ヶ月が経ちますが、なかなか同時接種に対する心配が消えないようで、同時接種を希望するお子さんが増えてきません。接種見合わせを振り返って事実の確認と同時接種の安全性について考えてみましょう。

一部の患者さんには、MAIL NEWSやBlogで紹介してありますが、接種見合わせの理由は次のような経過です。3月4日突然厚労省から、4例の死亡例の報告を受けて“小児用肺炎球菌ワクチン及びヒブワクチンを含む同時接種後の死亡報告と接種の一時の見合わせについて”が出されました。いつものように、我々に伝えられる前にマスコミに流されたものでした。後日談ですが、見合わせに関して専門家の意見は求めなかったという、呆れたものでした。

ワクチン後の死亡が7例になり、3月8日厚生労働省で“ワクチン予防接種後副反応検討会”が開催されました。様々な意見が出ましたが、ワクチンと同時接種に関係ないと判断するための情報が少ないということで、接種の見合わせが継続となりました。最終的に3月24日に再度検討会が開催され、以下の結論により4月1日から再開されました。

1. 報告された7例の症例評価について

現段階の情報において、いずれもワクチン接種との直接的な明確な因果関係は認められないと考えられる。

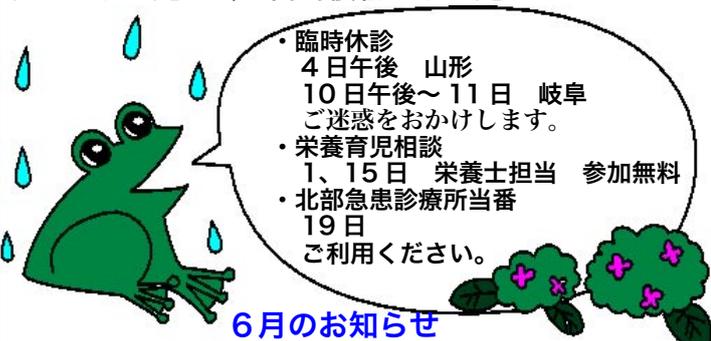
2. 諸外国の状況について

諸外国で報告されている状況と大きな違いは見られず、国内でのワクチン接種の安全性に特段の問題があるとは考えにくい。

3. 同時接種について

同時接種における副反応の発現率は、単独接種に比べて高い傾向があるとする報告もあるが、重篤な副反応の増加は認められておらず、特に安全性上の懸念は認められない。

未だに同時接種に対する意識がもとに戻らない原因には、マスコミの報道の仕方も大きく関係しています。視聴者の不安を煽るような表現、例えば“髄膜炎ワクチンによる死亡”、“同時接種による死亡”とニュース



・臨時休診
4日午後 山形
10日午後～11日 岐阜
ご迷惑をおかけします。
・栄養児相談
1、15日 栄養士担当 参加無料
・北部急患診療所当番
19日
ご利用ください。

6月のお知らせ

や新聞の見出しになれば、因果関係が無いにも関わらず、死亡原因はワクチンや同時接種と誤ってしまいます。こんな形で埋め込まれた意識が、不安が長く続く原因になってしまったようです。Blogには掲載してありますが、接種見合わせ決定後無料アンケート作成サイトを利用して「ヒブワクチン・小児用肺炎球菌ワクチンと同時接種に関してのアンケート」を行ないました。回答総数100件での結果は、次の通りです。



- ・死亡原因推測（複数選択）
：偶発的な病気・事故 73%, 同時接種 56%, ワクチン自体 37%, その他 24%
- ・死亡原因推測（単数選択）
：偶発的な病気・事故 42%, 同時接種 22%, わからない 22%, ワクチン自体 13%

- ・髄膜炎ワクチン予定者で安全と判断された後の接種
：様子みて 57%, すぐに 35%, しない 2%
- ・安全と判断された後の同時接種
：しない 46%, 様子みて 38%, すぐに 2%
- ・髄膜炎関連ワクチン以外で、今後のワクチン接種は
：単独接種で 49%, わからない 28%, 同時接種で 18%
- ・ワクチンの情報はどこから
：インターネット 52%, 医師 40%

見合わせ直後ですから止むを得ないにしても、やはり同時接種の意識が後退していることが読み取れます。

もう一度書きますが、“髄膜炎関連ワクチン並びに同時接種が、死亡との原因とは考えられない。”との結論です。また、2011年1月に日本小児科学会から「予防接種の同時接種に対する考え方」が示され、複数のワクチンを同時に接種して、それぞれのワクチンに対する有効性について、お互いのワクチンによる干渉はない、複数のワクチン(生ワクチンを含む)を同時に接種して、それぞれのワクチンの有害事象、副反応の頻度が上がることはない。同時接種において接種できるワクチンの本数に原則制限はない。と記載されています。また、同時接種の利点として、各ワクチンの接種率が向上する。子どもたちがワクチンで予防される疾患から早期に守られる。保護者の経済的、時間的負担が軽減する。医療者の時間的負担が軽減する。と示されています。

接種遅れが原因の細菌性髄膜炎への罹患も既に問題となっています。同時接種のメリットを理解して、以前のように積極的にすすめていきましょう。

現在髄膜炎関連ワクチン並びに同時接種再開後の意識調査を行なっていますので、是非ともご協力をお願いします。

ヒブワクチン・小児用肺炎球菌ワクチン
と同時接種に関してのアンケート2



『がんばろう！宮城 がんばろう！日本』
“みんなでやれば、大きな力に”

読者の広場

先月は37通のメールを頂きました。今回はスペースが限られているので、放射性物質関連のみのメールを紹介し、解説を加えましょう。紙面の都合で一部省略しています。全文はブログで。まずは仙台市外(本人の希望で)の山田さんから「カワムラ先生こんにちは。いつもお世話になってる山田しゅう&ゆあです★☆☆毎日、忙しいと思いますが本当に震災で無事で良かったです!!(略)そして今一番に心配は放射能です!!丸森や七ヶ宿まで汚染されてるようですが、どこまで気をつければ良いのでしょうか?雨にはもちろん、宮城県産の野菜などはやはり食べないほうがよいのでしょうか?水もどこまで気をつければいいのか?政府やTVでは事実を知らないようなのでカワムラ先生なら何か良いアドバイスをくれるのではないかと、ただただ子供の安全性が気になって仕方ありません!!(略)」。続いて青葉区の大坪さんから「いつも大変お世話になっております。〇〇〇の母親の〇〇〇〇です。(略)個人的には、原発事故直後からミネラルウォーターや浄水器を買ったり、娘に食べさせる野菜の産地に気を遣ってきましたが、やはり1歳児の母親としては、被曝への心配は拭いきれないものです。母親同士の集まりを通して、放射線量の測定や野菜の安全性の確保などを行政に頼っていますが、私たちはそろそろ、宮城県に住んでいる限りある程度の被ばくを受け入れて生きていかななくてはならない、ということを実感しなくてはいけない時期だと思い始めました。福島原発事故の後、娘の被曝が心配で、毎日のように西日本や海外への移住を考えることがあります。(略)県内産の農作物の放射能汚染が心配で、食べさせたくないと思う一方で、娘のふるさとである宮城県の農業や水産業が守られてほしいという気持ちもあります。行政や専門家に何とかしてほしいと思いつつも、子どもを守るのは母親だけなのだ、と気を引き締めたりしています。(略)今後ともどうぞよろしくお願ひいたします。」



同じような相談ですが別々に返信しました。「メールありがとう。今でも不自由な避難暮らしの方が居たり、放射能の問題で避難されている方がいると思うと胸が痛みます。そんな方たちのためにも、みんな元気で暮らすことが一番でしょう。さて放射能の問題ですが、MailNews, Blogで情報を提供しています。Blogでは、「東日本大震災」で放射能の問題を解説しています。まず大事なことは、空間線量と空気中の放射性物質は、仙台以北であれば心配はありません。最も放射線量が強かったのは地震直後で、その後は大量の飛散は無いようです。大気中の放射性物質が、雨で地表に落ちてくるのが問題です。しかし、これも現在では大きな問題ではないようです。心配したら切りが無く、絶対安全という物でもありません。ただ今の状況では、ほとんど心配する必要は無いと思います。わざわざ雨に濡れる必要はありませんが、濡れたからといって何かが起こるものではありません。昨日の大雨でびしょになってしまいました(笑)。つまり、野菜も水も、いつもと同じで構いません。普通に暮していれば問題は無いです」。放射能が問題になっていますが、大坪さんが書かれている自分の住んでいる県、国というものを受け入れなければなりません。世界には、放射能なんか問題にならないような悲惨な状況があります。乳児死亡率という統計があり、1000人産まれて1歳までに何人の子供が亡くなるかと示すものです。日本は3人程度ですが、世界では50人以上が亡くなる国が50もあるのです。つまり、どの国に生まれるかで、その子の運命(人の人生)が決まってしまうのです。この運命は変えられないことなのです。そんな悲惨なことと比較する意味はもちろんありません。しかし、受け入れるということは大事なことです。仙台より福島県の方が、放射性物質に対する不安が強いはずです。起きてしまった事実は否定できるのではなく、受け入れるか受け入れないか先におすすめできません。もちろんそれが一番難しいことであることも理解しています。ブログにも書きましたが、心配であれば防護服をきて、水も食料も遠方から調達し、それでも不安であれば疎開するしかないのです。与えられた現実の中で生きていくしか方法が無いことも事実です。10人に1人が1さいを迎えることが出来ない子どもたちを助けるには現実から救わなければなりません。それがどれだけ不可能かはおわかりのことと思います。となると、最後は現実を受け入れるという決意が必要でしょう。どこまで注意を払うかということ個人差があります。子どものことを考えて、できる限りという意識は必要だと思います。もうひとつ重要なことは、何を信じるかです。様々な情報が流れていてどれを信じたらいいかは、難しいかもしれません。あるお母さんから貰ったメールには、「いろいろな情報が流れてくるけど川村先生の情報を信じます」というのもありましたよ。やはり、信じるべきより所があれば、少しは心が軽くなるものだと思います。何か問題があるようなら、Mail Newsで流しますから、ご安心を!」。

5月の感染症の集計

感染症	集計数
水痘	13
溶連菌感染症	5
手足口病	2
突発性発疹	7
熱性発疹	5
インフルエンザ	8

水痘が増加しています。インフルエンザはほとんどがB型で、一部の保育園、幼稚園での流行ですが、大きな流行ではありません。3ヶ所の幼稚園でヒトメタニューモウイルスが見つっています。症状はインフルエンザに似ています。

Mail News, Twitter, Blog の紹介



Mail News は、震災を切っ掛けに330人を越えるお母さん方に登録をいただいています。右上のバーコードから「登録希望」と登録者、お子さんの名前を送信してください。

携帯用HP(左のバーコード)でMail NewsとTwitterも読めます。両方で情報を提供していました。Blog(右下バーコード)では、震災の始まりからの詳しい状況を写真入りで紹介してあります。是非お読みください!



予防接種が一部変更になりました(日本脳炎、震災救済) 詳細は院内掲示、Blogをご覧ください

編集後記

最近は大熱と咳の患者さんが多く、なんか集中力が持続でき無くなっていったらならない状況です。今月は2回の休診しなければならぬほどの診療外の忙しさです。4日は山形、10日は岐阜です。下旬及び7月にも講演が入っていて、水を得た魚のように忙しさが戻ってきました。一生懸命仕事することも、復興支援のひとつと思っています。



楽しいことも大切ですが、『お母さんクラブ』は市民センターの都合でしばらくの間お休みします。

震災でのクリニックの対応・院長の取組み・患者さんからのメール・被災状況は、Blog「こどもクリニック四方山話」で!!